

【全体概要】

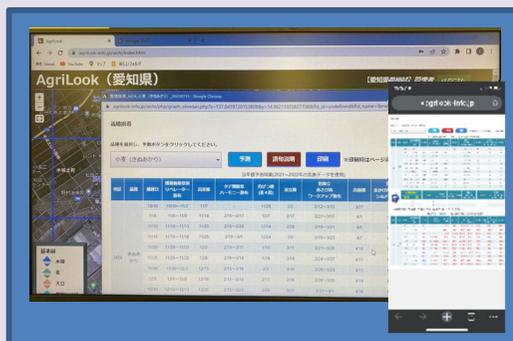
本県では、小麦が約5,500ha作付けされている。品質を確保しつつ、収量を高位安定させるためには、施肥、防除、収穫等の適期作業の確実な実施が求められる。そこで、収量・品質の高位安定化を図るために、愛知県農業総合試験場らが開発した「ICTを利用した小麦の生育予測技術」の現地適応性を検討する。

新品種・新技術等の概要

- 愛知県農業総合試験場が、愛知県経済農業協同組合連合会(あいち経済連)等と連携し、メッシュ農業気象データを使うことにより、1キロメッシュ単位で小麦の生育を予測できる技術を開発した。

- 対象小麦品種
きぬあかり、ゆめあかり

- 予測生育ステージ
茎立期、出穂期、成熟期等

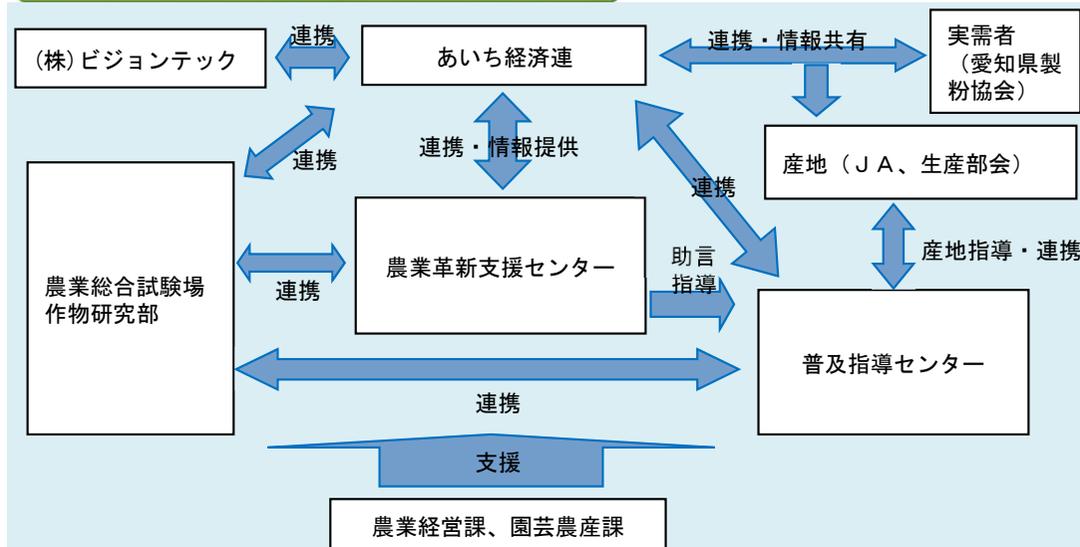


小麦生育予測技術を組み込んだ
作物栽培管理支援ツール
左:パソコン画面、右:スマートフォン画面

主な取組内容

- ICT技術利用検討会において、設計・成績について検討
- 実証ほの設置(R3年産57カ所、R4年産28カ所)
- 生育ステージ予測(出穂期、成熟期、出芽期、小麦4葉期、茎立期)の確認
- 実測日と予測日を分析し、適合性を検証

実施体制図



課題と今後の対応

- 生産者向け「利用マニュアル」及び産地への普及に向けた利用方法等についてとりまとめた「生産現場への普及に向けた手引き」を作成する。
- 湿害等の生育不良により誤差が大きくなることが明らかになったため、誤差が大きくなる事例の整理をすすめる。